



京都銀行安井頭取(左から3番目)。右隣 佐藤会長、西村委員長、余吾部長。頭取の左隣 久乗副会長、秦執行役員

依頼いただくと抵抗を払拭できることがあります。京都銀行様からも融資先へMIS利用推進をしていただきたいと思います。

安井(頭取) MISは、税理士を介して金融機関と融資先、金融機関と税理士との信頼関係が醸成できる仕組みだと考

えています。

余吾(部長) 「試算表」がMISで提供されると、信頼性や適時性という面に加えて、行内処理においても、とても効果的かつ効果的で助かっています。さらに利用件数を拡大していただきたいと思

秦(執行役員) TKC会員が若手行員と連携し、中小企業支援を進めている事例も少なくなく、TKC会員に感謝しています。MISで「決算書」が提供されるようになり、行員の動きも変わってきています。

書面添付を中小企業を共に支援する糸口に

久乗(副会長) 「書面添付」の内容をご覧いただく機会は少ないかもしれませんが、税理士が関与先との信頼関係のもと税理士資格を賭けて、事実を記載している書面です。決算書や申告書には表れない情報が記載されています。京都銀行様内で書面添付について理解いただいている行員の方は少ないのではないのでしょうか。

行員様向け勉強会開催などにより、有効性を感じていただく機会を設けられればと思います。書面添付が中小企業を共に

支援する糸口になればと考えています。

安井(頭取) 経営者から金融機関に相談が一言もなく、かつ、経営者も知らないうちに結果として粉飾決算になっているケースもあります。一方、TKC会員には職業会計人としての熱い思いがあり、金融機関として安心感があります。

久乗(副会長) 京都銀行様として、TKCマークの決算書や書面添付がMISで提供される場合、デフォルト率が下がると予想されます。この有用性について、京都銀行様行内で共有し、中小企業支援に繋がっていただければと思います。

安井(頭取) 粉飾が少なくない中、金融機関がどの段階で粉飾か否かを見極められるかが重要になってきています。「決算書」だけを見て粉飾か否かを判断するのは難しく、課題に感じているところ。日頃からの税理士との「顔の見える関係」で何かが変わるきっかけになると期待しています。

佐藤(会長) 京都銀行様の課題解決に向け、TKC近畿京滋会会員もお手伝いできればと考えています。今後も、「顔の見える関係」の構築と相互理解の進展にご協力よろしく願います。

(TKC京都SCGサービスセンター長 植田真弓)